

2004年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2005年1月31日

I 概要

実践団体・担当者名	NVN日本沼津災害救援ボランティアの会（担当者：事務局長 石川 學）	
連絡先	静岡県 沼津市 東原 239-9 NVN 電話 F A X 055-967-4564 携帯 090-1984-4901	
プランタイトル	楽しい防災！豊かな体験！TOUKA I ハウス プログラム！	
目的	遊び心を取り入れたTOUKA I ハウスで、予想される東海地震などの災害時に安全に身を守り被災後に災害救援ボランティア活動を積極的に行なう児童生徒や地域住民を育成する。	
プランの概略	<p>建物やブロック塀の破壊体験を通して、災害の現実を知りそして備える。</p> <p>①「TOUKA I ハウスやブロック塀」での直接的身体被害体験</p> <p>②災害を想定した「二方向通学路確認D I G」（災害図上訓練）</p> <p>③震災体験者およびボランティア活動体験者からの「直接講話授業」</p>	
プランの対象と参加人数	小学校 小学校のPTA 自主防災関係者 NVNクラブ NVNサマーキャンプ参加者 および静岡県東部県行政センター主催の防災展…などで約850名に対して開催した	
実施日時	2004年4月10日から2005年1月16日	
主な実施場所	沼津市立片浜小学校 沼津市青少年センター 三島市立箱根の里 静岡県東部県行政センター 沼津市大岡下石自治会館	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	沼津市立片浜小学校 PTA 沼津市教育委員会青少年課 静岡県東部県行政センター 災害ボランティアコーディネーター静岡県協議会 沼津市大岡下石自治会防災部
	連携したきっかけ・理由	①防災教育チャレンジプランに入選した為。 ②沼津市教育委員会主催の防災講演会講師をNVNが務めた為 ③静岡けんみん便りに「TOUKAIハウス」が掲載された為。 ④地域自治会役員やNVN会員からの要請
	連携団体へのアプローチ方法	①NVN 創立以来の交流があったため ②防災教育チャレンジプランに入選した報道により ③地域防災活動により
	連携団体との打合せ回数	沼津市立片浜小学校 PTA 8回 沼津市教育委員会青少年課 3回 静岡県東部県行政センター 5回 災害ボランティアコーディネーター静岡県協議会 5回 沼津市大岡下石自治会防災部 12回
連携団体との役割分担	沼津市立片浜小学校 PTA 会場提供 募集要項配布 沼津市教育委員会青少年課 会場提供 静岡県東部県行政センター 会場提供 開催要項配布 災害ボランティアコーディネーター静岡県協議会 技術提供 沼津市大岡下石自治会防災部 会場提供 開催要項配布	

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	15名
	外部スタッフの総人数	5名
	主なメンバーの 役職・役割	稲木寛男（NVN代表）…製作担当 渡辺八郎（NVN副代表）…設担当 石川 學（NVN事務局長）… 山本久男（建築事務所所長）… 久保田澄子（お話の会代表）…倒壊システム 狩野窪由美子（NVN理事）… 鈴木清光（中学校教諭）… 杉山和子（日本ドールハウス協会講師）… 高木亜理紗（NVN青少年委員・高1）… 長澤 雅（NVN青少年委員・中1）…ハウスデザイナー
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004年4月10日～2005年1月15日
	立案時間	2時間×10回（全体会議は10回だが、日常的に 時間を見ての打ち合わせは30回を越しました）
	上記のうち打合せ回数	10回+30回以上です
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	①あまり怖さを感じさせずに、倒壊の現実をどのように理解してもらうか？ ②東海地震などの揺れによって家は何故壊れる（倒壊）するのか？ ③自然の力に対して、人間としてどのような防災対策ができるか？ ④何らかの防災対策を自らしよう！という意識をもたせたい！	
プラン立案で 苦労した点	① 験者がケガなどをしないようにとの安全面について。 ② 実物大ハウスを可動及び組み立て可能な構造にする ③ 運搬に関しては、NVN 所有の福祉リフトバスに積載可能とする	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	15名
	外部スタッフの総人数	5名
	主なメンバーの 役職・役割	稲木寛男（NVN代表）…製作担当 渡辺八郎（NVN副代表）…設担当 石川 學（NVN事務局長）… 山本久男（建築事務所所長）… 久保田澄子（お話の会代表）…倒壊システム 狩野窪由美子（NVN理事）… 鈴木清光（中学校教諭）… 杉山和子（日本ドールハウス協会講師）… 高木亜理紗（NVN青少年委員・高1）… 長澤 雅（NVN青少年委員・中1）…ハウスデザイナー

2004年度防災教育チャレンジプラン

準備に要した日数・時間	準備期間	2004年4月10日～ 2005年1月16日
	準備総時間	時間× 回 時間× 回
	上記の内打合せ回数	回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	沼津市立片浜小学校 PTA 沼津市教育委員会青少年課
	どのように働きかけたか	市教育委員会 学校長 教頭に「防災教育チャレンジプラン入選」を報告し協力を仰いだ
	結果	大変な好感を得る事が出来て積極的な協力をいただいた。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	沼津市大岡下石田自会防災部
	どのように働きかけたか	地域防災訓練の指導を依頼されたので、そのときに「防災教育チャレンジプラン入選」を報告し協力を仰いだ
	結果	地域防災講話及び秋のお祭りの会場展示をしました
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	沼津市片浜小学校 PTA
	どのように働きかけたか	PTA会長に「防災教育チャレンジプラン入選」を報告し協力を仰いだ
	結果	大変な好感を得る事が出来て積極的な協力をいただいた
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	TOUKAI ハウス一式
	入手先・入手方法	NVNオリジナル
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	わかりやすく伝えやすいため
参加者の募集	募集方法	新聞 PTA会報などで募集し広報しました。
	募集期間	2004 7月1日 ～2005年1月16日
	参加予想人数	250名(サマーキャンプ 自治会訓練 防災の日イベント等)
	実際の参加人数	450名
	募集方法の成功点	TOUKAIハウスのネーミング!
	募集方法の失敗点	特になし
準備で苦労した点・工夫した点		

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003			
11月			
12月			
2004			
1月			
2月			
3月			
4月		4/10 プラン打ち合わせ会議①	
5月		5/8 プラン打ち合わせ会議② 5/27 プラン打ち合わせ会議③ ★ミニハウス製作開始	
6月		6/12 プラン打ち合わせ会議④ 6/21 プラン打ち合わせ会議⑤ ★ミニハウス製作完成	
7月		TOUKAI ハウス作業場の設営 TOUKAI ハウス製作を開始	
8月		TOUKAI ハウス製作	8/23 箱根青少年キャンプ実演 8/24 防災講話…阪神淡路被災者 8/29 大岡自治会防災訓練実演
9月		9/27 プラン打ち合わせ会議⑥ TOUKAI ハウス製作及び改良	9/19 大岡自治会 秋祭り実演
10月		10/20 プラン打ち合わせ会議⑦ TOUKAI ハウス製作および改良	
11月		9/27 プラン打ち合わせ会議⑧ TOUKAI ハウス製作及び改良	
12月		12/16 実施報告書作成会議① 12/21 プラン打ち合わせ会議⑨ TOUKAI ハウス製作および改良	12/11 片浜小学校防災訓練実演
2005		1/10 プラン打ち合わせ会議⑩ 1/19 実施報告書作成会議② TOUKAI ハウス製作及び改良	1/12～1/16 県行政センター防災展示 ★活動報告書作成

V実践の詳細 【B. イベント】(イベント当日の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。)

時間	場所	活動内容	指導者 講師等	使用機材・ 教材等	留意点	参加者の反応・声	苦労した点・工夫した点	スタッフ(団体内・外部)の人数・役割
8:00	NVN事務局	TOUKAIハウス積み込み	NVN稲木石川	TOUKAIハウス				
11:00								
12:00	箱根到着							
13:00	搬入 組立	基礎 床 壁 屋根などを組み立て 小学生 中学生 高校生 大学生 の 80名が倒壊状況体験						
14:00	講座開始							
15:00								
16:00	箱根出発							
17:00		TOUKAIハウス解体開始						
18:00	NVN事務局着	搬出						
19:00		ハウス荷おろし 全工程完了!						

VI実践後

参加者へのアンケート結果	小学生たちからは、思ったより怖かったなどとの体験が多く寄せられました。保護者からは、子供達の怖がる顔の中に笑顔があったのがよかったの感想がありました。大学工学部の学生からは、簡単に見えるがかなりの工夫がありますね！と認められました。	
成果として得たこと	今までの防災教育では体験できなかった家屋の倒壊やブロック塀の転倒などから、日常の自分たちでできる防災活動に関心が広がった事が成果と思います。	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。データがあればデータファイルを貼付して下さい。) ★新聞及び静岡県けんみんだよりなどの資料を報告書に掲載いたします。	
広報方法	広報した先	静岡県防災部 県内各新聞社 放送局 県内小中学校高等学校
	広報の方法	チラシなどを郵送
	取材にきたマスコミ	読売新聞 静岡新聞 沼津朝日新聞 沼津新聞 静岡県けんみんだより広報部
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	新聞及び静岡県けんみんだよりなどの資料を報告書に掲載いたします
	成功点	分かり易く楽しめるハウスを製作したこと
	失敗点	時に無し
全体の感想と反省・課題	とにかく大型ハウスの製作にかなりの時間と技術をかけました。床 壁 天井などの部材を可動式にする『丁番』ですが、市販の物はなく約100個に登る丁番を溶接により製作しました。模型及び設計の段階では計算した部材能力が予想外に多くかかり、何度も繰り返し改良を重ね現在に至りました。また前述のように構造に時間をかけなければならなかったため、一般受けするデザインの完成までには至らず、鑑賞にも堪えるデザインは今後の課題となりました。	
今後の予定	来年度以降の進め方	TOUKAI ハウスをより多くの児童生徒及び地域の方々に体験していただくためには、NVN としての活動体力をつけていきたいと思っています。 またデザイン(外部塗装及び内装)を充実したいと思います。 さらに軽量型組み立てハウスを設計していければと思っています。
	是非実施してみたい取り組み	多くの災害が発生している中ですが、体験型の TOUKAI ハウスはまさに災害を疑似体験できたために防災教育には最適と思います。内外装はもちろんの事、数種のシナリオを作成して臨場感を出せればと思います。 また、多くの学校で実践できるように全国の教育委員会などでの指導者講習会を開催できればと思います